

理解の意味特徴を持つ日中同形動詞 について

— 認知言語学からのアプローチ —

Sino-Japanese Verbs with Semantic Features of Understanding:
An Approach Based on Cognitive Linguistics

朱 薇娜[†]
ZHU Weina[†]

Abstract In this paper, I examine the psychological verbs "Rikai" (理解) and "Ryokai" (了解) in Japanese, as well as "Rijie" (理解) and "Liaojie" (了解) in Chinese, utilizing concepts from cognitive linguistics such as frame and focus. Initially, through a survey of the correspondence between Chinese and Japanese homograph verbs using a corpus of Chinese and Japanese translations, it was observed that "Rikai" and "Rijie" exhibit a high degree of agreement. Both verbs emphasize the process of information processing, involving analysis, organization, and comprehension. Concrete object distinctions, primarily perceived through the five senses, do not typically co-occur with "Rikai" and "Rijie", as they are not reliant on internal information processing. However, distinctions involving abstract objects can co-occur with these verbs. In contemporary Japanese usage, "Ryokai" primarily denotes the acknowledgment and acceptance of another party's request, as well as the activation of conversational frameworks. Conversely, "Liaojie" encompasses two semantic nuances: one akin to "Rijie", focusing on the absorption of information, and another focusing on investigative means for acquiring information..

1. はじめに

本稿では、認知言語学概念であるフレームや焦点化等を用いて、日中同形心理動詞の意味・用法における共通点と相違点を考察する。具体的には、日本語の「理解」「了解」ⁱ、中国語の“理解”“了解”（以下、日本語の同形語を「」、対応する中国語の同形語を“ ”で括弧示す。）を研究対象に、コーパス調査や類義関係にある動詞グループへの考察を通じて、これら四つの動詞の関連性や各動詞の特徴を明らかにする。

本稿の構成は次の通りである。まず第2節では、日中同形語や心理動詞に関する先行研究を概観し、フレームと焦点化の概念を確認する。次に第3節では、具体的な研究方法を説明し、コーパス調査の結果等を示す。続く

4節では、3節の調査結果を踏まえ、各動詞の図式を作成し、それぞれのフレームに含まれる要素や焦点化する部分の違いを述べ、用例分析により各動詞の特徴を示す。最後に第5節では、以上の考察から導かれる結論を述べる。

2. 研究背景

本節では、本稿の研究対象に関わる日中同形語や心理動詞の先行研究を簡単に概観し、認知言語学におけるフレームや焦点化の概念を確認する。

2・1 日中同形語や心理動詞に関する先行研究について

[†] 愛知工業大学 基礎教育センター（豊田市）

日中同形語については、その意味対応関係（文化庁 1978、張 1987 等）、共起語の異同（大河内 1992、筆者 2020,2021、吉甜 2022 等）、第二言語習得への影響（熊他 2017、小森 2017 等）、様々な視点から研究が行われてきたが、認知言語学からのアプローチは少なかった。

また、日本語の心理動詞と中国語の心理動詞の先行研究は、アスペクトやモダリティなどの文法的なふるまいに重点を置いて論じられてきた（工藤 1995、吉永 2008、陳 1987、馮 2021 等）が、意味の側面からアプローチする研究は限られていた。

本稿では、これまでの研究とは異なる視点、具体的には認知言語学の概念を活用し、日中同形心理動詞の対照研究を行う。

2・2 フレームと焦点化について

筆者（2020）では、共起語の意味内容に応じて同形語の意味区分を行った際に、抽象名詞の指示内容が修飾部により意味範疇が変化したりすることがある（e.g. 学校の規模 vs. 予算の規模）ことに気づいた。また、後文で詳述するが、「理解」の共起語である「違い」は、修飾部に応じて「理解」と共起できる場合と共起しにくい場合がある（e.g. 類義語の違いが理解できる vs. ?料理の味の違いが理解できる）。そのため、共起語のみならず、異なる観点からのアプローチが必要と考えられる。そのため、本稿では、認知言語学のフレームと焦点化の概念を導入する。

フレームは、語の意味やある概念を理解するための様々な背景的な知識構造として捉えられる（野村 2013、藤井他 2023 等）。例えば、「買う」「売る」という語は、売り手、買い手、商品、お金という構成要素からなる共通の「商業フレーム」を喚起し、両者の違いは、買い手の視点からの事象焦点化か、売り手の視点からの事象焦点化か、つまり焦点化の違いにある（藤井他 2023:24）と言える。

なお、フレームは認知文法概念である認知領域（domain）、焦点化は際立ち（prominence）との間には類似している部分がある。本稿では、それらを区別せずに「フレーム」と「焦点化」という用語に統一する。

3 調査方法と調査結果

3・1 調査方法

「理解」「了解」「理解」「了解」の意味・用法を確認するために、日本語では『大辞林』（第四版）『デジタル大辞泉』、中国語では《現代汉语词典》（第七版）、『中日辞典』（第三版）による意味記述をまとめた。

また、この四語の対応関係を見るため、《中日対訳語料庫第一版》という日中対訳コーパスを使った（以下、対訳コーパスと記す）。さらに、用例の補足やコロケーシ

ョン情報の確認のために、日本語では NLT、中国語では BCC コーパスを利用した。NLT は 11 億規模の筑波ウェブコーパス検索ツールであり、BCC コーパスは、新聞記事（20 億）、文学（30 億）、総合（19 億）等からなる大規模のウェブコーパスである。なお、「了解」の用例調査について毎日新聞デジタルも利用した。

ほかに、「理解」と「了解」の上位語に当たる和語動詞「分かる」の意味も確認した。

3・2 辞書による意味記述とコロケーション情報

『大辞林』『デジタル大辞泉』の記述とコロケーション情報を次に以下に示す。

「理解」の意味：

- ①意味や内容、物事の道理などが分かること。
- ②人の気持ちや立場などを察すること。

NLT における上位の共起語：

{こと／内容／意味／それ／（重要／可能）性／（大切／弱）さ／気持ち／仕組み／状況／本質}

「了解」の意味：

物事の内容や事情を理解して承認すること。

NLT における上位の共起語：

{こと／それ／これ／内容／意味／存在／自己¹⁾}

《現代汉语词典》（第七版）『中日辞典』（第三版）の記述とコロケーション情報を以下に示す。

“理解”の意味：理解すること。分かること。

BCC における上位の共起語：

{人／心情／意义／意思／关系／含义／理论／内容／思想／精神}

“了解”の意味：

- ①理解すること。
- ②調査すること、尋ねること。

BCC における上位の共起語：

{情况／状况／人／知识／信息／需求／文化／历史／现状／特点}

3・3 「分かる」の意味記述

日本語の和語動詞は、漢語動詞より意味範疇が広く、漢語動詞の上位語として見なすことがしばしばある。さらに、日中同形語における中国語の動詞は、日本語の和語動詞に対応する部分がある（筆者 2020：14）ため、本節では「分かる」の意味を確認する。

ここに、オンラインで検索可能な『基本動詞ハンドブック』における「分かる」の意味記述を参考にしながら、「分かる」と「理解」「了解」の意味関係を示す。

『基本動詞ハンドブック』では、「分かる」の意味について、意味 1（不明瞭な事柄の明確化）を基本義として、

その下位に意味2〈同定〉、意味3〈会得〉、意味4〈本質理解〉、意味5〈気持ち・意図の理解〉、意味6〈承諾（応答）〉の五つの意味を立てている。そのうち、意味4と意味5は「理解」の意味、意味6は「了解」の意味と重なり、類義関係を形成している。具体的には、意味4〈本質理解〉は、「物事の本質が理解できる」と解釈され、「コーヒーの違い」「料理の味」「本の本当の価値」といった名詞句を分かるの対象とする用例が挙げられ、また、コロケーション情報として、「分かる」の対象（ガ格）として{違い/味/価値/ありがたみ/本質/神髄}が列挙されている。また、意味6〈承諾（応答）〉は、「相手の依頼や要求を聞き入れたとの応答」と解釈され、類義語として「了解」が挙げられている。ここでは、その意味関係を示すことに留め、具体的な分析を4節に引き継ぐ。

3・4 対訳コーパスの調査結果

対訳コーパスで「理解」と「了解」のすべての活用を含む動詞形式と中国語の対応表現を調査した。その結果は下表1、2に示す通りである。

表1 「理解」の中国語対訳表現

対訳表現		頻度
理解		176
了解		21
“懂”類	懂得, 听懂	7
“知道”類	知道, 知根知底	7
“明白”類	明白, 糊涂	6
“思考”類	思考, 想不到	5
様々	融会贯通, 琢磨不透	21
手段	追根问底, 有苦难言	4
意識		6
省略		4
合計		257

表2 「了解」の中国語対訳表現

対訳表現		頻度
了解		6
理解		5
明白		2
その他	谅解, 听不出, 懂, 令人纳闷	7
合計		20

「理解」の動詞形式の該当箇所は、247か所あり、二つの訳語に当てられた箇所は10か所あるため、257か所として計上した。対応表現として最も多かったのは「理解」(176)で、次に多かったのは「了解」(21)である。それ以外の心理状態・心理活動を表す表現として合計67か所で、具体的には“懂得”“听懂”のような“懂”の構成要素を持つ“懂”類、“知道”“知根知底”のような“知”の構成要素を持つ“知道”類といったグループを形成する表現に加えて、“融会贯通”や“琢磨不透”など様々な表現が訳語として当てられていた。そのほかにも、理解を達成するための手段を示す表現が4か所、意識が6か所、省略が4か所あった。

「理解」の257か所中、176か所に「理解」として訳されており、したがって約68.5%の一致率があることから、「理解」と「理解」は、意味が類似していることが分かる。一方、31.5%の不一致もあり、翻訳作品に起因する翻訳者の理解、語の取捨選択の好みも反映されていることを除き、何か特徴的な異なりがないかを見る必要もある。

「了解」の動詞形式の該当箇所は、16か所あり、二つの訳語に当てられた箇所は4か所あるため、20か所として計上した。対応表現として最も多かったのは「了解」(6)で、次に多かったのは「理解」(5)であった。それに続いて“明白”が2か所、それ以外の表現は“谅解”“听不出”“懂”等がすべて頻度1だった。対訳コーパスは、用例数が少ない上に、現代日本語における「了解」の会話で相手の要望を聞き入れるという基本的な意味・用法が反映されていない。なお、動詞形式ではないため、統計には計上していないものの、対訳コーパスには、次の(1a)のような「了解を得る」という連語形式をした〈相手の要望を聞き入れる〉を表す例もある。

(1)a. 「御主人の了解も得ませんとね。とにかく三人も男が夜入り浸りになりますからね」

b. “那就要取得您丈夫的同意。不管怎么说，三个男人要整夜整夜地泡在这里。”

(『あした来る人』《情系明天》対訳)

対訳コーパス調査の結果から、大正・昭和時代の文学作品では、「了解」は「理解」と近い意味で使われていたことが分かる。このような意味・用法の変化については、本稿の射程を超えて深く掘り下げないが、理解との競合関係がその一因であると考えられる。

4. 分析

4・1 「理解」「理解」の図式

3 節の調査結果を踏まえ、「理解」「理解」は意味が類似し、共通のフレームを持っているため、図 1 のように図式化できる。

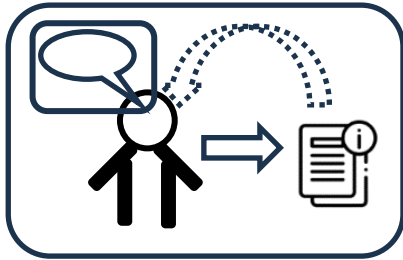


図 1 「理解」「理解」の図式

図の左側にある人の形をしたものは認知主体を表し、右側の i マークがついたものは情報を示す。認知主体から情報への実線の矢印は、認知主体が情報を聞いたり読んだりして何らかの手段によって情報に働きかけることを表す。一方、情報から認知主体への点線の矢印は、認知主体が情報を受け取り、それによって何らかの影響を受けることを示す。情報は、主体的な働きかけを持たないものの、刺激物として認知主体に何らかの影響が及ぶため、その影響を点線で示す。左上の吹き出しの形をしたものは認知主体の脳内の活動を表す。「理解」「理解」の場合、主に情報の分析・整理・消化が含まれると想定でき、ほかの語と区別する、際立ちの大きい部分、すなわち焦点化する部分であるため、太い枠で囲んでいる。

また、人間主体の認知活動は、基本的に情報を獲得するプロセス、情報を脳内で処理するプロセス、情報を発信するプロセスの一部又は全部が含まれると捉えることができる。図 1 のフレームは、多くの思考動詞や判断動詞に共通するフレームであると見なされる。

4・2 「了解」の図式

3 節の調査結果を踏まえ、「了解」のフレームは次の図 2 のように図式化する。

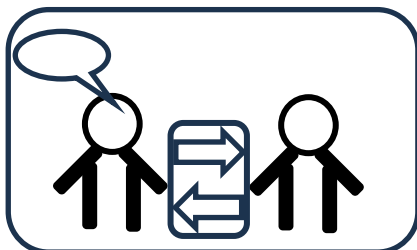


図 2 「了解」の図式

「了解」は、会話のフレームを喚起し、認知主体と相手の存在が想定できる。認知主体（要望を受け入れる側）は、相手（要望を依頼する側）から要望を表す情報を受

け取り、理解した上で認めるということを表す。図 2 における下の矢印は、認知主体が相手から情報を受け取ることを、上の矢印は、認知主体が相手の要望を受け入れることを表す。情報のやりとりはほかの語と区別するための、際立ちの大きい部分、すなわち焦点化する部分であるため、太い枠で囲んでいる。

4・3 “了解”の図式

3 節の調査結果を踏まえ、“了解”のフレームは次の図 3 のように図式化する。

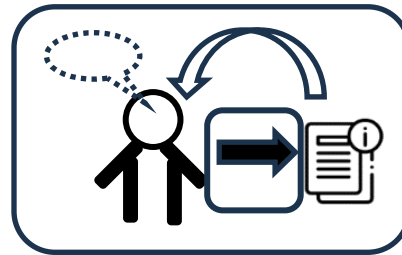


図 3 “了解”の図式

“了解”のフレームは、「理解」「理解」のフレームに類似しているが、焦点化する部分が異なる。3.2 節で示したように、“了解”は意味①〈理解する〉と意味②〈調査する〉の 2 つの意味を持っている。意味①の場合、上の太い枠で囲んでいる、情報から認知主体への実線の矢印は、情報を取り入れることを表す。意味②の場合、下の太い枠で囲んでいる、黒く塗りつぶした矢印は、手段の際立ち、すなわち〈調査する〉ことを表す。“了解”は、「理解」「理解」と比べ、脳内での情報処理プロセス、すなわち情報の分析・整理・消化等が背景化するため、脳内での情報処理プロセスを表す、吹き出しの形をしたものを点線で示す。

4・4 フレームに基づいた分析

各語のフレームを表す図式に基づき、この四語の特徴を考察する。

4・4・1 「理解」「理解」の共通点

3.3 節で述べたように、「分かる」の意味 4 と「理解」とは類義関係を形成している。しかし、意味 4 の用例と「理解」との対応について考えると、次のようなことが観察できる。対照の便宜上、『基本動詞ハンドブック』の用例を適宜修正したものを以下に示す。

(2)a. コーヒーの違いが {分からない/?理解できない}。

b. この料理は味が {分かる/?理解できる} 人に食べてもらいたい。

- c. 飲み比べて日本酒の違いが {分かる／??理解できる}。
- (3)a. 本の本当の価値が {分かる／理解できる}。
b. 物事の本質が {分かる／理解できる}。
c. お金のありがたみが {分かる／理解できる}。

同様に、以上の (3) グループは、中国語の“理解”に対応するが、(2) グループは、中国語の“理解”に訳しにくく、(2a) は“不懂咖啡的区别”、(2b) は“懂美食”、(2c) “品得出日本酒的区别”のような訳文に対応すると考えられる。

このように、「理解」も“理解”も、例 (2) にある「価値」「本質」「ありがたみ」に加え、{類義語／意味／内容}の違いのような抽象物と共起できるが、「コーヒー」や「料理」のような具体物の違いに対しては共起しにくい傾向がある。

{類義語／意味／内容} のような抽象物の違いを理解する場合、脳内での情報処理プロセス、すなわち情報の分析・整理・消化等が焦点化される。一方、コーヒーの違いや料理の味など、具体物の違いを判断する場合、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚の五感を主要な情報獲得の手段として機能し、違いを判断する前段階での情報獲得の手段として捉えられる。これは以下のような言語事実にも裏付けられている。

- (4)a. この二種類のコーヒー豆の色を見てその違いが分かった。
a'. 看了这两种咖啡豆的颜色，明白了它们之间的区别。
b. 聞いてみてこの二つの楽器の音色の違いが分かった。
b'. 听了一下，听出来了这两种乐器的音色的区别。
c. 二つの生地を触ってみてその違いが分かった。
c'. 摸了一下两种面料，明白了它们之间的区别。
d. 香りを嗅いでこの二つの香水の違いが分かった。
d'. 闻了闻香味，闻出了这两种香水的区别。
e. 飲み比べて，この二つの日本酒の違いが分かった。
e'. 分别品尝了一下，明白了这两种清酒的区别。

上記の (4a-e) は日本語の作例で、(4a' - e') は対応する中国語の訳文であるⁱⁱⁱ。具体物の違いを判断する場合、(4a-e) 及び (4a' - e') に示すように、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚による情報獲得プロセス、違いを判断するプロセスという二つのプロセスに分けて言語化することができる。この場合、脳内での情報についての分析・整理・消化のプロセスが想定できず、情報獲得プロセスが焦点化されるため、脳内での情報処理プロセスを焦点化する「理解」「理解」とは異なる。

以上をまとめると、具体物を対象に五感を主に頼って情報処理を行う場合、日本語でも中国語でも〈理解〉と

して捉えにくく、通常はそれぞれ「分かる」、「懂」「明白」又は“听出”“闻出”のような動詞＋補語の形式に対応する。一方、抽象物を対象にその意味・内容・特徴等を把握する場合、脳内での情報処理プロセスが焦点化され、〈理解〉として捉えられる。

4・4・2 「理解」「理解」の相違点

本節では、「理解」「理解」の対応関係における不一致な部分を検討する。3.4 節の表に示すように、「理解」の対訳表現として、“听懂”“想不到”のような動詞＋補語の形式、“追根问底”“有苦难言”のような理解を達成するための手段を示す表現がある。まず、対訳コーパスの例文を見て、そのような不一致が現れた理由を探る。

- (5)a. 臭い山の芋を煮て何にするかは不明であるが、どうやら彼は専らこの作業のため、ここへ来ているらしい。芋はこのあたりで採れるのであろう。「何にするのか」と訊いたが、彼の答えたピサヤ語は、私には理解出来なかった。
b. 我不明白他为什么煮这些臭山芋，但是他似乎为了这件工作特意来到了这里。也许可能在这一带采到山芋吧。我问他为什么煮这东西，他用米塞雅语回答了我，我没有听懂。(『野火』《野火》 対訳)

(5) の文脈から分かるように、「私」にとって、ピサヤ語は全く知らない外国語である。未知の言語で話しかけられた際に、日本語では“分からない”“理解できない”と表現されるのに対して、中国語では“没能理解”にも訳され得るが、“听不懂”(「聞いて分からない」)や“没(有)听懂”(「聞いて分からなかった」)のほうがより定着していると考えられる^{iv}。前節の議論で分かったように、“听”(「聞く」)は聴覚による情報獲得の手段で、中国語ではフレームに入っている手段を際立たせて言語化する傾向がある。

触覚^v、嗅覚、味覚と異なり、視覚や聴覚は、抽象物の意味や内容を理解するために不可欠な手段であると考えられる。日本語では、このようなデフォルトの設定では、以下の (6ab) のように、「読む」や「聞く」といった手段を言語化せずに、単に「理解できた」と表現することが一般的である。また、以下の (7ab) に示すように、手段を言語化する際に、それを際立たせて強調したり比較したりするニュアンスが現れる。これに対し、中国語では、情報処理の結果、すなわち“理解了”(「理解できた」)のみでも対応できるが、動詞＋補語の形式、いわゆる動補構造に対応するのが一般的である。

- (6) a. 先生の話(を) (聞いて) 理解できた。
b. 文章の意味を (読んで) 理解できた。
(7) a. 先生の話(を) (聞いても) 理解できない。

- a'. 老师讲得听也听不懂。
 b. 英語の文章は聞いて分からないけど、読めば理解できる。
 b'. 我听不懂英语的文章，但我能读懂。

4・4・3 「了解」の特徴

4.2 節の「了解」の図式から分かるように、「了解」は、ほかの 3 語と異なり、会話のフレームを喚起し、相手からの要望を受けることと相手の要望を受け入れることの両方がフレームに含まれる。対訳コーパスの例文は、現代日本語における「了解」の意味・用法を反映できていないため、ここに毎日デジタルと NLT の実例を示す^{vi}。

- (8)a. それ（保健所が作った資料）を持って説明に伺い、「野良猫にエサを与えるなら避妊手術をして数が増えないようにしてください」とお願いして、（近所の人に）了解していただいた^{vii}。（毎日新聞 2023/9/1 東京朝刊）
 b. 我带着保健所做好的资料去邻居那里说明情况，拜托他们“如果你要喂养流浪猫，请给它们做绝育手术，不要让它们的数量增加”，邻居同意了。
 (9)a. 診断時に（患者さんに）お伝えした内容を了解していただいた後、いよいよ治療開始となります。（矯正治療の流れ NLT）
 b. 当患者接受了在诊断时向他们传达的内容后，就可以开始治疗了。

(8a) では「私」と「近所の人」、(9a) では「医者」と「患者」は、要望を依頼する側と、要望を受け入れる側と見なせる。この場合、中国語では、同形語に当たる“了解”に対応せず、“同意”（「同意する」）“接受”（「受け入れる」）といった表現に対応する。

以上をまとめると、「了解」はほかの 3 語と異なり、情報のやり取りを際立たせて焦点化することが特徴的である。また「理解」と「了解」の関係に関しては、理解した上で了解するという論理的関係を示している。

4・4・4 “了解”の特徴

4.3 節の“了解”の図式から分かるように、ほかの 3 語と比べ、“了解”は情報を取り入れることと情報獲得の手段にそれぞれ焦点を当てていることで特徴的である。“了解”と“理解”の違いについて、対訳コーパスの例文を通して論じる。以下の (10a) は小説の『こころ』の内容で、(10b) と (10c) はその翻訳文である。「理解しない」という同一の表現に対して、二人の翻訳者は異なる表現を選択した。

- (10)a. 時間に束縛を許さない悠長な田舎に帰った私は、御蔭で好もしくない社交上の苦痛から救われたも同じ事であったが、私を理解しない母は少しも其所に気が付い

ていないらしかった。

- b. 我这不受时间约束的人，回到悠闲的乡村，就仿佛从令人厌烦的社交的痛苦中解救出来一样。但是，母亲不能理解我，好象根本没有发现这一点似的。
 c. 在悠闲的乡村里，是不受时间约束的。我回来以后就是叨了这一点光，才避免了我所讨厌的那种社交上的苦痛。然而母亲不了解我，她好象丝毫也没有注意到这一点。（『こころ』《心》 対訳）

(10b) と (10c) を比べると、“母亲不能理解我”という場合、私の気持ちや考え、立場などを察することができないのに対し、“母亲不了解我”という場合、情報の有無（情報を取り入れたかどうか）、又は情報の充足・不足（十分な情報を取り入れたかどうか）という問題が問われる。

6. まとめ

本稿は、フレームや焦点化といった認知言語学概念を用いて日中同形心理動詞の「理解」「了解」「理解」「了解」の関連性と特徴について考察した。それにより、語の多義の間における意味の関連性、類義語どうしの意味の関連性を統一的に捉えることができる。考察の結果は、以下に示す。

①「理解」と“理解”は意味が類似し、脳内での情報処理プロセスを焦点化する。対訳コーパスでは、両語は高い一致率を示している。両語の共通点として、具体物を対象に五感を主に頼って情報処理を行う場合、「理解」としても“理解”としても捉えにくいことが取り上げられる。一方、対訳コーパスにおける両語の不一致は、日中語におけるデフォルトの設定による差がその一因であると考えられる。

②「了解」と“了解”は意味が異なる。「了解」は、会話のフレームを喚起し、情報のやり取りを焦点化し、“了解”は、二つの意味を持ち、それぞれ情報を受け入れること、情報を獲得する手段を焦点化する。

③日本語の「理解」と「了解」は、理解した上で了解するという論理的関係を示している。それに対し、中国語の“理解”と“了解”は、情報を把握した（“了解”）後に理解する（“理解”）という論理的関係を持っている。このように、「理解」と「了解」、「理解」と“了解”は論理的関係において対照的な性質を示し、興味深い相違点と言える。

今後の課題として、類似のフレームを持つ思考動詞や判断動詞に調査対象を広げ、フレームや焦点化の有効性を検証する。

参考文献

【日本語文献】

- 大河内康憲. 1992. 「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対照研究論文集（下）』. 東京:くろしお出版 pp.179-215
- 吉甜. 2022. 「動補関係の日中同形語の相違—目的語の使用を中心に」『日中言語対照研究論集』(24):1-15.
- 国立国語研究所. 『基本動詞ハンドブック』(https://verhandbook.ninjal.ac.jp 高原真理執筆「分かる」)
- 小森和子. 2017. 「日中同形語から見えること—似ているようで似ていない同形語の習得の難しさ」『日本語学』(36):56-67.
- 野村益寛. 2013. 「フレーム」辻幸夫(編)『新編認知言語学キーワード事典』. 東京:研究社 p. 317
- 文化庁. 1978. 『中国語と対応する漢語』. 東京:大蔵省印刷局.
- 藤井聖子・内田諭. 2023. 『フレーム意味論とフレームネットワーク』. 東京:研究社.
- 熊可欣・玉岡賀津雄・早川杏子. 2017. 「中国人日本語学習者の日中同形同義語の品詞性の習得—語彙知識・文法知識との因果関係—」『第二言語としての日本語習得研究』(20):63-79.

【中国語文献】

- 陈光磊. 1986. 〈第四章心理动词〉范晓・杜高印・陈光磊《汉语动词研究》. 上海:上海教育出版社.
- 冯军伟. 2021. 《现代汉语心理动词构式的认识情态研究》. 北京:中国社会科学出版社.

【英語文献】

- Fillmore, C. J., & Atkins B.. T. S. 1992. Towards a Frame-Based Organization of the Lexicon: The Semantics of RISK and Its Neighbors. *In Frames, Fields, and Contrast: New Essays in Semantics and Lexical Organization*. Mahwah: Lawrence Erlbaum Associates. 75-102

【辞書】

- 『大辞林』(第四版)三省堂 2019年
『中日漢語対比辞典』張淑榮(1987) ゆまに書房
『中日辞典』(第三版)小学館 2016年
『デジタル大辞泉』小学館
『現代漢語詞典』(第七版)商務印書館 2016年

用例出典

- NLT コーパス <https://tsukubawebcorpus.jp/>
毎日新聞デジタル <https://mainichi.jp/>
BCC 語料庫 <http://bcc.blcu.edu.cn/>

ⁱ 本稿では、日中同形動詞の表記を統一するために、「理解する」「了解する」を略して「理解」「了解」と記す。

ⁱⁱ NLTにおいて、「理解」(頻度 155,119)は「了解」(頻度 2,954)と比べ出現頻度で大差をつけ、共起する対格の共起語の異なり語数も頻度も大きな差がある。また「了解」の上位共起語の「自己」は10例しかなく、その用例を見ると「理解」の意味として使われているもので、現代日本語の「理解」の意味とずれがある。

ⁱⁱⁱ 対訳コーパス以外の用例の中国語の訳文はすべて筆者による。

^{iv} 興味深いことに、“听不懂”の対応表現としてよく用いられる「聞き取れない」は、この場面にはふさわしくない。「聞き取れない」の辞書形の「聞き取る」は、語の意味ではなく、語の認識を表すため、その言語の知識をある程度持っていることを前提としている。一方、語を認識したり区別したりするような情報処理の操作に関して、中国語では、“听不懂”ではなく、(アb')の“听不出来”に対応することが一般的である。

(ア) a. *言葉の意味が聞き取れない。

a'. 听不懂词的意思。

b. 言葉が聞き取れない。

b'. 听不出来单词。

^v あくまでもデフォルトの設定であるが、視覚障害者にとっては、「点字を触ってその内容を理解する」のような場合も想定できる。そのような場合、触覚も抽象物の意味・内容を理解するための情報獲得の手段として捉えられる。

^{vi} 「了解」は会話文によく登場する一方で、NLTのような書き言葉コーパスでは用例が限られているため、毎日新聞コーパスも併せて調査した。「了解を得る」のような連語形式が多数見られ、一方で「閣議で了解する」、(7a)のような動詞形式の出現が少なかった。(最終検索 2023/9/15)

^{vii} 事例の()に入った内容は、筆者によるもので、文脈から文を理解するための補足情報である。以下同様。

(受理 令和6年3月19日)